いきいき健康生活
鴻巣市広報「かがやき」 平成24年4月15日号 掲載
甲状腺って？

皆さんは、甲状腺という臓器をご存知ですか？甲状腺は甲状腺ホルモンを産生・分泌する体表臓器といわれています。例えば、焼肉屋でよく見かける「ホルモン焼」は、牛や豚などの捨ててしまう部分を表す、関西弁の「ほおるもん」がなまったものです。

したがって、今回のホルモンとはまったくの別ものです。さて、甲状腺についてですが、体のどこにある臓器か知っていますか。最初に体表臓器と書いたように、甲状腺は体の表面に近い部位にあります。その部位は首の前面にあり、形は蝶ネクタイをした時のように存在しています。

通常は筋肉の奥にあるため、外から容易に触れることはありませんが、例えば腫瘍ができたり、その働きが異常に亢進してしまった場合には、触診だけでも診断のつく数少ない臓器です。

今回は、「甲状腺機能亢進症」という病気についてお話します。病気のなかには、性別により極端にその頻度の違う病気があります。この病気もその一つで、圧倒的に女性に多い病気です。

病状がすすむと甲状腺自体が大きくなり、触診でも診断できる病気ですが、そこまで進行する以前に様々な症状があらわれます。

食事の量は減っていないのに、体重が減少している

疲れやすい

暑がりになり、安静にしても汗をかく

動悸がする

いろいろなことが多くなるなどがその症状の代表的なものです。

他にもいろいろな自覚症状がみられますが、これらの特徴を総合すると、女性に圧倒的に多く、～を主な症状とする病気、「更年期障害」によく似ています。

もしかすると、テレビなどの情報により、甲状腺機能亢進症を更年期障害でかたづけられている方がいるかも知れません。血液検査や超音波検査で、甲状腺機能亢進症は容易に診断がつかます。気になる方は一度、専門医に相談してみましょう。